

豊川市本庁舎等整備工事基本設計に関する住民説明会開催結果

	地区	開催日時	開催場所	参加者数
1	一宮	4月21日(火) 18時30分～	一宮生涯学習センター	35名
2	音羽	4月22日(水) 18時30分～	音羽生涯学習センター	27名
3	御津	4月23日(木) 18時30分～	御津生涯学習センター	25名
4	小坂井	4月24日(金) 18時30分～	小坂井生涯学習センター	34名
5	豊川	4月25日(土) 13時30分～	豊川市勤労福祉会館	31名
			合計	152名

(説明会の様子)



(主な意見)

主な意見・質問	回答
キャッチコピーの「歴史をつむぎ」とは、新庁舎のデザインにどのように反映されているのか。	歴史をつむぐことの一環として、例えば現本庁舎ロビーの壁面タイルなどを新庁舎の壁の一部に復元できないか、また、豊川市役所の敷地内には戦前から松の木があるため、一部でも次世代へ残すことはできないかなど様々な取組を検討している。
概算事業費について、青色の建設費指数のグラフからも上昇傾向が読み取れるが、今後どれくらいの上昇を見込んでいるのか。	具体的な変動幅は昨今の中東情勢の兼ね合いもあり、現時点で明確にお示しすることは困難な状況である。 今後の動向を注視しながら、実施設計段階で改めて精査し、お示しします。
新分庁舎棟建設工事の進捗状況は。	車庫棟の建設が完了し、現在は、3階建ての新分庁舎棟の建設工事中であり、今年10月頃の完成を目指している。 なお、新分庁舎棟の2階には上下水道部の執務室を計画し、それ以外には会議室や書庫、倉庫を計画している。
エレベーターの緊急時の閉じ込め時に、視覚によるコミュニケーションを確保するため、例えばスケルトンにするなど、聴覚障害者に配慮した対応をお願いできないか。	基本計画の方針2で「誰もが利用しやすい開かれた庁舎」を掲げている。 ご提案のスケルトン仕様のエレベーターを含めて、実施設計段階で詳細な検討を行う。
過去の説明会(基本構想)において要望したデジタルサイネージの検討状況はいかがか。	デジタルサイネージには庁舎内の案内や行政情報の発信のほか、市民課などの受付整理番号の表示など、目的に応じて複数設置する予定である。 なお、受付整理番号の表示については、窓口カウンター前の待合席に加えて、多目的スペースや来庁者休憩スペースなどへの設置も検討しており、窓口前に居続けるのではなく、離れた場所でも現在の呼出番号が把握できる仕組みを考えている。
雨天時に庁舎間を濡れずに移動できるのか。	市民交流棟から防災センターへの通路部分などに屋根を設置する予定であり、多少の風雨であれば濡れずに移動することが可能と考えている。 なお、新本庁舎玄関前にピロティを設けることで、雨に濡れずに乗降ができる計画としている。
災害時における新庁舎の収容人数は何名か。	新庁舎は災害時の避難所ではないため具体的な収容人数は想定していないが、例えば市民交流棟1階には150人収容の大会議室があり、2階には休憩スペース、キッズスペースといった広い空間を確保している。 市民交流棟は免震構造ではないが、通常の建物よりも揺れに強い設えとしており、開庁時における大規模災害発生直後の一時的な避難場所として利用可能である。
武力攻撃などの事態に備えたシェルターを設置する予定はあるか。	シェルターを設置する予定はない。